

227008

昭和×年×月×日

五

志社

東洋大日本國之憲案





日本國々憲按

第一編 國家大則及權限

第一章 國家ノ大則

第二章 國家ノ權限

第二編 聯邦大則及權限

並ニ各州ト相關スル法

第一章 聯邦ノ大則

第二章 聯邦ノ權限並ニ各州ト相關ス

ル法

第三編 各州ノ權限及聯邦ト相關スル法

第四編 日本國民及日本人民、自由權利

第五編 皇帝皇族及攝政

第一章 皇帝、威嚴

第二章 皇帝、權限

第三章 皇帝及皇帝、繼承

第四章 皇帝、即位

第五章 皇帝、婚姻

第六章 皇帝、歲俸

第七章 皇帝、年令

第八章 攝政

第九章 皇族

第六編 立法權ニ関スル諸規則

第一章 立法權ニ関スル大則

第二章 立法權ノ權限

第三章 立法議員權力

第四章 議員投票及被投票ノ法

第五章 議員ノ任期

第六章 議員償給費

第七章 議員ノ制限

第八章 立法會議ノ時日

第九章 立法會議閉集散

第十章 會議ノ規則

第十一章 立法院ノ決議ヲ國法ト為ス

ニ就テ皇帝ト相関スル規則

第七編 行政權ニ関スル諸則

第一章 行政權ニ関スル大則

第二章 行政官

第三章 行政府

第四章 統計局

第八編 司法權ニ関スル諸則

第一章 司法權之闡明大則

第二章 法官

第三章 法衙

第四章 裁判

第五章 高等法院

第九編 土地

第十編 租稅

第十一編 國金

第十二編 財政

第十三編 會計

第十四編 用軍兵

第十五編 外國人歸化

第十六編 特法學事

第十七編 鐵道電信陸路水利

第十八編 憲法改正

附則

日本國々憲按

第一編 國家ノ大則及權利

第一章 國家ノ大則

第一條 日本國ハ日本國憲法ニ循テ之ヲ立テ之ヲ持ス

第二條 日本國ニ一立法院一行政院一司法廳ヲ置ク憲法其規則ヲ設ク

第二章 國家ノ權限

第三條 日本ノ國家ハ國家政府ヲ達行センカ
為ノニ必要ナル事物ヲ備フルヲ得

第四條 日本國家ハ外國ニ對シテ交際ヲ為シ
條約ヲ結フヲ得

第五條 日本ノ國家ハ日本各人ノ自由權利ヲ
殺滅スル規則ヲ作りテ之ヲ行フヲ得ス

第六條 日本ノ國家ハ日本國民各自ノ私事ニ
干渉スルコトヲ施スヲ得ス

第二編 聯邦ノ大則及權限並ニ各州ト相
関スル法

第一章 聯邦ノ大則

第七條 日本武蔵州 山城州 大和州

備中州	出雲州	佐渡州	越前州	陸中州	上野州	常陸州	伊豆州	尾張州	和泉州
安藝州	石見州	丹後州	加賀州	陸奥州	下野州	近江州	相模州	三河州	攝津州
周防州	隱岐州	但馬州	能登州	羽前州	岩代州	美濃州	安房州	遠江州	伊賀州
長門州	播磨州	日播州	越後州	羽後州	盤城州	飛彈州	上總州	駿河州	伊勢州
紀伊州	美作州	伯耆州	越中州	若狹州	陸前州	信濃州	下総州	甲斐州	志摩州

淡路州

阿波州

讚岐州

伊豫州

土佐州

筑前州

筑後州

豊前州

豊後州

肥前州

肥後州

日向州

大隅州

薩摩州

壹岐州

對馬州

琉球州

ヲ聯合シテ

日本聯邦

トナス

第八條

日本聯邦ニ大政府ヲ置キ聯邦ノ政ヲ

統

第九條

日本聯邦ハ日本各州ニ對シ其州ノ自

由獨立ヲ保護スルヲ主トスヘシ

第十條

日本國內ニ於テ未タ獨立ノ州ヲ為サ

ザル者ハ聯邦之ヲ管理ス

第十一條 日本聯邦ハ日本各州ニ對シ外國ノ
侵寇ヲ保禦スルノ責アリ

第二章 聯邦ノ權限並ニ各州ト相關ス
ルノ法

第十二條 日本聯邦ハ日本各州相互ノ間ニ關
シテ規則ヲ立ツルコトヲ得

第十三條 日本聯邦ハ日本各州ニ對シテ其一
州内各自ノ事件ニ干涉スルヲ得ス其州内郡
邑等ノ定制ニ干涉スルヲ得ス

第十四條 日本聯邦ハ日本各州ノ土地ヲ奪フ

正
第
一
章
第
一
節
第
一
條
ヲ得ス其州ノ旨テ諾スルニ非サレハ一州ヲ
モ廢スルヲ得ス

第十五條 憲法ニ非レバ日本諸州ヲ合割スル
ヲ得ス諸州ノ境界ヲ變スルヲ得ス

第十六條 日本國內ニ於テ新ニ州ヲ為スニ就
テ日本聯邦ニ合セントスル者アルトキハ聯
邦ハ之ヲ妨シテ得ス

第十七條 外國ト諸盟約ヲ結フノ權國家ノ体
面ヲ以テ諸外國ト交際ヲ為スノ權ハ聯邦ニ
アリ

第十八條 聯邦中ニ用フル度量衡ヲ制定スル

ノ權ハ聯邦ニアリ

第十九條 通貨ヲ造ルノ權ハ聯邦ニアリ

第二十條 海關稅ヲ定ルノ權ハ聯邦ニアリ

第二十一條 宣戰講和ノ權ハ聯邦ニアリ

第二十二條 日本聯邦ハ聯邦ノ管スル處ニ燈

船燈臺浮標ヲ設クルヲ得全種類ノ者ハ順次

揚クルヲ得

第二十三條 日本聯邦ハ驛遞ヲ管理スルヲ得

第二十四條 日本聯邦ハ特ニ聯邦ニ関スル事

物ノ為メニ諸法律規則ヲ定ムルヲ得

第二十五條 日本聯邦外國貨幣及尺度權衡ノ

聯邦内ニ通用スルモノニ價位ヲ定ムルヲ得

第二十六條 日本聯邦ニ常備軍ヲ設置スルヲ

得

第二十七條 日本中一州ト一州ト相互の間ニ

涉々争訟ハ聯邦之ヲ審判ス

第二十八條 日本各州ト外國使節ト公務ノ注

復アルトキハ聯邦行政府ヲ經由ス

第三編 各州ノ權限並ニ聯邦ト相関スル

法

第廿九條

日本各州ハ日本聯邦ノ大ニ抵觸ス

ルモノヲ除クノ外皆獨立シテ自由ナルモノ

トス何等ノ政体政治ヲ行フトモ聯邦之ニ干

渉スルコトナシ

第三十條

日本ノ各州ハ外國ニ向ヒ國家ノ權

利体面ニ関シ國土ニ関スル條約ヲ結フコト

ヲ得ス

第卅一條

日本各州ハ外國ニ向ヒ聯邦並ニ他

州ノ權利ニ関ル事ニ限り經濟上ノ件警

察上ノ件ニ就キ互約ヲ為スヲ得又々法則ヲ
立ツルコトヲ得

第三十二條 日本各州ハ既ニ寇賊ノ来襲ヲ受

ケ危急ニ迫ルニアラサレハ戦ヲ為スヲ得ス

第三十三條 日本各州ハ互ニ戦鬪スルヲ得ス

争訟アルハ決シ聯邦政府ニ仰ク

第三十四條 日本各州ハ現ニ強敵ヲ受ケ大乱

ノ生シタルカ如キ危急ノ時機ニ際シテハ聯

邦ニ報シテ救援ヲ求ルコトヲ得又々他州ニ

向テ應援ヲ請フコトヲ得各州右ノ次第ヲ以

テ他州ヨリ應援ヲ請ハレシ時眞ニ其危急ニ
迫ルヲ知ルトキハ赴援スルヲ得其費ハ聯邦
ニ於テ之ヲ辦ス

第三十五條 日本各州ハ常備兵ヲ設置スルヲ
得

第三十六條 日本各州ハ護郷兵ヲ設置スルヲ
得

第三十七條 日本各州ハ聯邦ノ許允ヲ待タス
シテ二州以上互ニ盟約ヲ結フヲ得ス

第三十八條 日本各州ハ二州以上協議ヲ以テ

其境界ヲ變改スルヲ得又々其州ヲ合スルヲ
得此事アルトキハ必ス聯邦ニ通セサルハカ
ラス

第三十九條

第四編 日本國民及日本人民ノ自由權利

第四十條 日本ノ政治社會ニアル者之ヲ日本
國民トナス

第四十一條 日本ノ人民ハ自ラ好シテ之ヲ脱
スルカ及自ラ諾スルニ非サレハ日本人タル

コトヲ削カル、コトナシ

第四十二條 日本ノ人民ハ法律上ニ於テ平等

トナス

第四十三條 日本ノ人民ハ法律ノ外ニ於テ自

由權利ヲ犯サレサルヘシ

第四十四條 日本ノ人民ハ生命ヲ全フシ四肢

ヲ全フシ形体ヲ全フシ健康ヲ保チ面目ヲ保

チ地上ノ物件ヲ使用スルノ權ヲ有ス

第四十五條 日本ノ人民ハ何等ノ罪アリト雖

モ生命ヲ奪ハサルヘシ

第四十六條 日本ノ人民ハ法律ノ外ニ於テ何等ノ刑罰ヲモ科セラシサルヘシ又々法律ノ外ニ於テ鞠治セラシ逮捕セラシ拘留セラシ禁錮セラシ喚問セラルコトナシ

第四十七條 日本人民ハ一罪ノ為メニ身体汚辱ノ刑ヲ再ヒセラルコトナシ

トナシ
第四十八條 日本人民ハ拷問ヲ加ヘラルコト

トナシ
第四十九條 日本人民ハ思想ノ自由ヲ有ス
第五十條 日本人民ハ如何ナル宗教ヲ信スルモ

自由ナリ

第五十一條 日本人民ハ言語ヲ述フルノ自由

權ヲ有ス

第五十二條 日本人民ハ議論ヲ演フルノ自由

權ヲ有ス

第五十三條 日本人民ハ言語ヲ筆記シ執行シ

テ之ヲ公ケニスルノ權ヲ有ス

第五十四條 日本人民ハ自由ニ集會スルノ權

ヲ有ス

第五十五條 日本人民ハ自由ニ結社スルノ權

ヲ有ス

第五十六條 日本人民ハ自由ニ歩行スルノ權

ヲ有ス

第五十七條 日本人民ハ住居ヲ犯サレサルノ

權ヲ有ス

第五十八條 日本人民ハ何クニ住居スルモ自

由トス又タ何クニ旅行スルモ自由トス

第五十九條 日本人民ハ何等ノ教授ヲナシ何

等ノ學ヲナスモ自由トス

第六十條 日本人民ハ如何ナル産業ヲ營ムモ

自由トス

第六十一條

日本人民ハ法律ノ正序ニ拠ラス

シテ屋内ヲ探檢セラレ器物ヲ閱視セラレ、

ヲナシ

第六十二條

日本人民ハ信書ノ秘密ヲ犯サレ

ザルベシ

第六十三條

日本人民ハ日本國ヲ辭スルヲ自

由トス

第六十四條

日本人民ハ凡ソ無法ニ抵抗スル

ヲ得

第六十五條 日本人民ハ諸財産ヲ自由ニスル

ノ權アリ

第六十六條 日本人民ハ何等ノ罪アリト雖モ

其私有ラ没収セララル、_レナシ

第六十七條 日本人民ハ正當ノ報償ナクシテ

所有ヲ公用トセララル_レナシ

第六十八條 日本人民ハ各其名ヲ以テ政府ニ

上書スル_レヲ得各其身ノタメニ請願ヲナス

ノ權アリ其立會社ニ於テハ會社ノ名ヲ以テ

其書ヲ呈スル_レヲ得

第六十九條 日本人民ハ諸政官ニ任セラル、

ノ權アリ

第七十條 政府國憲ニ違背スルハ日本人民
ハ之ヲ從ハザルヲ得

第七十一條 政府官吏壓制ヲ為スルハ日本人民
ハ之ヲ排斥スルヲ得

政府威カラ以テ擅恣暴逆ヲ逞フスルハ日本人民ハ兵器ヲ以テ之ニ抗スルヲ得

第七十二條 政府恣ニ國憲ニ背キ擅ニ人民ノ
自由權利ヲ殘害シ建國ノ旨趣ヲ妨クルハ

日本國民ハ之ヲ覆滅シテ新政府ヲ建設スル

ヲ得

第七十三條 日本人民ハ兵士ノ宿泊ヲ拒絶ス

ルヲ得

第七十四條 日本人民ハ法廷ニ喚問セラルハ

時ニ當リ詞訴ノ起ル原由ヲ聽クヲ得

已レヲ訴フル本人ト對決スルヲ得已レヲ助

クル証拠人及表白スルノ人ヲ得ルノ權利アリ

第五編 皇帝及皇族摂政

第一章 皇帝ノ特權

第七十五條 皇帝ハ國政ノ爲メニ責ニ任セス

第七十六條 皇帝ハ刑ヲ加ヘラルハ、ナシ

第七十七條 皇帝ハ身体ニ屬スル賦稅ヲ免カ

ル

第二章 皇帝ノ權限

第七十八條 皇帝ハ兵馬ノ大權ヲ握ル宣戰講

和ノ機ヲ統ブ他國ノ獨立ヲ認ムルト認メザ

ルトヲ決ス

但シ和戰ヲ決シタル片ハ直ニ立法院ニ報告

ハ
タ
コ

セザル可ラス

第七十九條 皇帝ハ平時ニ在リ立法院ノ議ヲ
經スシテ兵士ヲ徵募スルヲ得

第八十條 皇帝ハ外國事務ノ總裁タリ諸外國
交官ヲ命スルヲ得外國交際ノ礼ヲナスヲ得
但シ國權ニ関スル條約連盟ハ立法院ノ議ヲ
經ルニ非シハ決行スルヲ得ス

第八十一條 皇帝ハ人民ニ勲等賞牌ヲ與フル
ヲ得

位階ヲ與フルヲ得ス

第八十二條 皇帝ハ立法院ノ議ニ由ラザレハ
通貨ヲ創造若クハ改造スルヲ得ス

第八十三條 皇帝ハ立法院ノ承諾ヲ經テ聯
邦ノ罪囚ヲ赦免シ及降減スルヲ得

聯邦既定ノ裁判ヲ他ノ裁判所ニ移シテ復審
セシムルヲ得

法司ノ法權ヲ施スラ担格スルヲ得ス

聯邦執政ノ職務罪ニ係ル者ハ聯邦立法院ニ
反テ恩赦ヲ與ヘ降減ヲナスヲ得ス

第八十四條 皇帝ハ立法院ヲ延引スルヲ得

立法議院ノ承諾ナクシテ三十日ヲ越スルコト

ヲ得ス

第八十五條 皇帝ハ諸兵備ヲ爲スヲ得

第八十六條 皇帝ハ國政ヲ施行スルカ爲メニ

必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第八十七條 皇帝ハ人民ノ權利ニ係ルコト國家

ノ金錢ヲ費スルコト國家ノ土地ヲ變スベキコトヲ

專行スルコトヲ得ス必ス聯邦立法院ノ議ヲ經ル

ヲ要ス立法院ノ議ヲ經ザルモノハ實行スル

ノ効ナシ

第八十八條 皇帝ハ聯邦行政府ニ出頭シテ政

ヲ秉ル

第八十九條 皇帝ハ聯邦行政府ノ長タリ常ニ

聯邦行政ノ權ヲ統フ

特別ニ定ムル者ノ外聯邦諸行政官吏ヲ命ス

ルヲ得

第九十條 皇帝ハ聯邦司法廳ノ長タリ其名ヲ

以テ法權ヲ行フ又法官ヲ命ス

第九十一條 皇帝ハ現行ノ法律ヲ廢シ已定ノ

法律ヲ格置スルヲ得ス

第九十二條 皇帝ハ法ノ外ニ於テ租稅ヲ收ム
ルヲ得ス

第九十三條 皇帝ハ法ノ外ニ於テ立法院ノ議
ヲ拒ムヲ得ス

第九十四條 皇帝ハ立法議會ト意見ヲ異ニシ
テ和セザルニ當リ一タヒ其議會ヲ解散スル
ヲ得之ヲ解散シタル中ハ必ス三日内ヲ以
テ其旨ヲ各撰擧區ニ達シ且人民ヲシテ更ニ
議負ヲ撰バシメ必ス六十日以内ヲ以テ議會
ヲ復開セザル可ラズ一タヒ解散シタル上ニ

テ復開シタル議會ハ回事件ニ就テ再ヒ解散
スルヲ得ス

第九十五條 立法院ノ議決シタルニシテ皇
帝之ヲ實施シ難キト為スハ議會ヲシテ之
ヲ再議セシムルヲ得此ノ如キハ皇帝ハ其
由ヲ詳說陳辨セザル可ラス

第九十六條 日本國百帝ノ位ハ今上天皇睦仁
陛下ニ屬ス

第九十七條 今上皇帝陛下去レバ陛下ノ
正統子孫ニ傳フ若シ子孫ナキハ尊族ノ親

近ナル者ニ讓ルルノ次序ニ循フ

今上皇帝ノ位ハ第一嫡皇子及其統ニ世傳ス

第二嫡皇子及其統ニキ片ハ嫡庶子及其統ニ

世傳ス

第三嫡庶子及其統ニキ片ハ庶皇子及其統

ニ世傳ス

第四以上統ニキ片ハ嫡皇子及其統ニ世傳

ス

第五以上統ニキ片ハ庶皇女ニ世傳ス

第六若シモ以上ノ嫡皇子孫庶皇子孫及其

統ナキハハ皇帝兄弟姉妹及其統ニ世傳ス

第八 若シモ皇帝ノ嫡庶子孫兄弟姉妹伯叔
父母及其統ナキハハ立法院ノ議ヲ以テ皇族
中ヨリ撰テ其嗣ヲ定ム

第九十八條 帝位繼承ノ順序ハ男ハ女ニ先チ
長ハ幼ニ先チ嫡ハ庶ニ先ツ

第九十九條 非常特別ノコトアリ帝位繼承ノ順
序ヲ變セントスルコトアレバ皇帝ト立法院ト
ノ協議ヲ經テ之ヲ行フベシ

第四章 皇帝ノ即位

第百條 皇帝ノ即位ハ必ス立法議員列席

ノ前ニ於テス

第五章 皇帝ノ婚姻

第百一條 皇帝ノ婚姻ハ必ス立法院ノ議ヲ

經ル要ス

第百二條 女帝ノ丈婚ハ王権ニ干渉スルヲ

得ス

第六章 皇帝ノ歳俸

第百三條 皇帝ハ年々國庫ヨリ〇〇萬円

ノ俸ヲ受ク

第七章 皇帝ノ年齢

第四百條 皇帝ノ歳未タ十八歳ニ至ラサル内
ハ之ヲ未成年ト定ム十八歳ニ及ヘハ之ヲ成
年ト定ム

第八章 摂政

第四百五條 皇帝未成年ノ間ハ攝政ヲ置ク
第四百六條 皇帝長ク事故アリテ親ウ政ヲ秉ル
ヲ能ハサル片ハ攝政職ヲ置ク

第四百七條 皇帝事故アリテ攝政職ヲ置クノ時
ニ際シ皇太子成年ナル片ハ皇太子ヲ以テ攝

政ニ當ツ

第百八條 摂政ハ皇帝ノ名ヲ以テ王權ヲ行フ
第百九條 摂政ノ職制章程ハ立法院ニ於テ之
ヲ立定ス

第百十條 摂政官ハ皇帝又ハ首相之ヲ指名シ
立法院之ヲ定ム

第百十一條 皇帝嗣、未成年中ニ其位ヲ讓ウン
トスルノ場合ニ於テハ豫メ摂政官ヲ指名シ
テ立法院ノ議ニ附シ之ヲ定ムルヲ得

第九章 皇族

第百十二條 皇太子ハ身体ニ関スル賦課ヲ免

カル

第百十三條 皇太子ハ年々國庫ヨリ支給ヲ受

ク法章之ヲ定ム

第四編 立法權ニ関スル諸則

第一章 立法權ニ関スル諸則

第百十四條 日本聯邦ニ関スル立法ノ權ハ日

本聯邦人民全体ニ屬ス

第百十五條 日本聯邦人民ハ皆聯邦ノ立法議

政ノ權ニ與カルヲ得

第百十六條 日本皇帝ハ日本聯邦立法權ニ與

カルヲ得

第百十七條 日本聯邦ノ法律制度ハ聯邦立法

院ニ於テ立定ス

第百十八條 聯邦立法院ハ全國ニ一ヲ置ク

第百十九條 聯邦立法ノ權ハ限教人代議ノ制

ヲ用ヒテ之ヲ行フ

第二章 立法院權限

第百廿條 聯邦立法院ハ聯邦ニ關スル租稅ヲ

定ムルノ權ヲ有ス

第百廿一條

聯邦立法院ハ聯邦ノ軍律ヲ定ム

ルヲ得

第百廿二條

聯邦立法院ハ聯邦裁判所ノ訴訟

法ヲ定ルヲ得

第百廿三條

聯邦立法院ハ聯邦ニ関スル兵制

ヲ議定スルヲ得

第百廿四條

聯邦立法院ハ聯邦ノ名ヲ以テ國

債ヲ起シ金錢ヲ借り及之ヲ償却スルノ法ヲ

立ルヲ得

第百廿五條

聯邦立法院ハ通貨ニ関スル法律

ヲ立ルコトヲ得聯邦ニ對スル國事犯罪律ヲ立
ルヲ得

第百廿六條 聯邦立法院ハ郵便ノ制ヲ立ルヲ
得

第百廿七條 聯邦立法院ハ聯邦ノ通貨ヲ増減
改造スルノ議ヲ定ルコトヲ得

第百廿八條 聯邦立法院ハ聯邦ノ共有物ヲ所
置スルヲ得

第百廿九條 聯邦立法院ハ聯邦政府ノ保証ヲ
為ス銀行會社ノ規則ヲ立ルコトヲ得

第百三十條 聯邦立法院ハ切要ナル調査ニ関シ聯邦ノ官吏ヲ議場ニ投喚スルノ權アリ又聯邦人氏ヲ召喚スルノ權アリ又聯邦人氏ヲ召喚シテ事情ヲ質スルヲ得

第百世一條 聯邦立法院ハ憲法ノ許ス所ノ權利ヲ行フカ為メニ諸規則ヲ立ルヲ得

第百世二條 聯邦立法院ハ外國人并ニ國外ノ者ニ関スル規則ヲ立ツルヲ得

第百世三條 聯邦立法院ハ聯邦行政府諸執行ノ職務ニ関セル罪科並ニ國事犯罪ヲ彈劾論

ハ
タ
コ

告シ正的ノ法院ニ求刑スルノ權ヲ有ス

第百世四條 聯邦立法院ハ本院議員ノ權任ヲ

監査スルノ權アリ

第百世五條 聯邦立法院ハ議員ニミテ其職分

ニ関スル命令規則ニ違背スル者ヲ處分スル

ヲ得

第百世六條 聯邦立法院ハ既往ニ溯ルノ法律

ヲ立ルヲ得ス

第百世七條 聯邦立法院ハ外國ト條約ヲ結ビ

連盟ヲ為スヲ決定スルノ權アリ

但シ國權ノ獨立ヲ失フノ契約ヲナスヲ得ス
第百廿八條 聯邦立法院ハ行政部ニ對シ推問
ノ權ヲ有ス

第三章 立法議員ノ權力

第百廿九條 聯邦立法院議員ハ其職ヲ行フニ附
キ發言シタル意見ニ就テ糾治檢索セラレ、
フナシ

第百四十條 聯邦立法院議員ハ本院ノ許可ヲ經
スシテ開會ノ間並ニ其前後三十日間ハ要領
ノ為ニ拘引拘留セラレ、フナシ刑事ノ為ニ

拿捕セラレ糾治セラル、トナシ

但シ現行犯ハ此限ニアラス

第四章 議員撰舉及被撰舉ノ法

第百四十一條 聯邦議員ハ聯邦人民之ヲ直撰
ス

第百四十二條 聯邦議員ハ一州各七名ト定ム

第百四十三條 現ニ租税ヲ納メサル者現ニ法

律ノ罪ニ服シ居ル者政府ノ官吏ハ議員ヲ撰
舉スルヲ得ス

第百四十四條 現ニ法律ノ罪ニ服シ居ル者政

府官吏ハ議員ニ撰舉セラル、トヲ得ス

第百四十五條 日本各州ハ何レノ州ノ人ヲ撰
舉シテ議員トナスモ自由トス

第五章 議員ノ任期

第百四十六條 聯邦ノ立法院議員ハ三年ヲ一期
トシ三年毎ニ全員ヲ改撰ス

第六章 議員ノ償給旅費

第百四十七條 聯邦ノ立法院議員ハ年々國庫
ヨリ三千円ノ手當金ヲ受ク又其會議ニ出ツ
ル毎ニ往復旅費ヲ受ク

第八章 立法會議

第百四十九條 聯邦ノ立法會議ハ毎年一回之
ヲ為ス其ノ他事ナキニ於テハ十月第一ノ月
曜日ニ之ヲ開ク

第百五十條 議事ノ多少ニ依リ皇帝ハ時々期
日ヲ伸縮スルヲ得然レトモ議員過半数ノ同意
アルハ皇帝ノ命アリト雖モ議會其伸縮ヲ
定ム

第九章 立法會議開閉集散

第百五十一條 非常ノ事件アリテ會議ヲ要ス

ルハハ皇帝ハ臨時會ヲ開クヲ得

第百五十二條 聯邦會議ノ開閉ハ皇帝之ヲ司
ル

第百五十三條 毎年ノ常會ハ皇帝ノ命ナシト

雖モ聯邦議員ハ自ラ會ニテ議事ヲ為スヲ得

第百五十四條 皇帝崩去ノ時ニ在リテハ聯邦
議會ハ臨時會ヲ開ク

第百五十五條 現在議員ノ任期已ニ尽クルノ
際未タ交代ス可キノ議員ノ撰舉セラレサル

ノ間ニ於テ皇帝崩スルヲアル中ハ前期ノ議
員集合シテ新議員ヲ生スルマデ會議ヲ為ス
事ヲ得

第百五十六條 立法會議皇帝ノ為ニ解散セラ
シ皇帝國法ノ通りニ復立セザル時ハ解散セ
ラレタル議會ハ自ラ復會スルヲ得

第十章 會議規則

第百五十七條 聯邦立法議案ハ立法院國王俱
ニ之ヲ出スヲ得

第百五十八條 聯邦立法議會ノ議長ハ立法院

ニ於テ議員ヨリ公撰ス

第百十九條 凡會議ハ議員全數ノ過半数ノ出席ナレハ之ヲ開クヲ得

但シ同一事件ニ付再度以上集會ヲ催シタル片ハ過半数ノ出席ナシト虽モ議事ヲ為スヲ得

第百六十條 特別ニ定メタル規則ナキ事件ノ議事綜テ出席員過半数ノ議ヲ以テ決定ス西議同數ナルヲアル片ハ議長ノ傾向スル所ニ決ス

第百六十一條 聯邦ノ立法會議ハ公ニ傍聴ヲ
許ルス其特異ノ時機ニ際シテハ秘密ニスル
ヲ得

第十一章 立法院ノ決議ヲ國法トナス

ニ就テ皇帝ト相關スル規則

第百六十二條 聯邦立法院ニテ決定シタル成
説ハ皇帝ニ呈シテ承認ヲ得ルヲ必トス

第百六十三條 皇帝立法院ノ成議ヲ受取ラハ
三日以内ニ必ス其答ヲ為サ、ル可ラス若シ
其熟考セシト要スルヲアラハ其趣ヲ申通シ

テ二十日以内ニ可否ヲ示ス

第百六十四條 聯邦立法院ノ決定スル所ニシテ
テ皇帝準許セサルコトアルハ立法院ヲシテ
之ヲ再議セシム

立法院之ヲ再議シタル中ハ議員總數過半以
上ノ同意アルヲ見シバ更ニ夫之ヲ必ス之ヲ
行フニ定ム

第七編 行政権ニ関スル諸則

第一章 行政権ニ関スル大則

第百六十五條 日本聯邦行政権ハ日本皇帝ニ

属ス

第百六十六條 日本聯邦ノ行政府ハ日本皇帝

ニ於テ統轄ス

第百六十七條 日本聯邦ノ行政權ハ聯邦行政

府ニ於テ開施ス

第百六十八條 皇帝ノ行政權ヲ行フニ就テハ

國家ニ一ノ首相ヲ置キ又諸政ノ類ヲ分テ其

各省ヲ設ケ其各主務官ヲ命ス

第百六十九條 皇帝ヨリ出ス諸件ノ布告ハ主

相ノ名ヲ署シ當該ノ本任長官副署シテ之ヲ

シ 發ス執政ノ副署ナキモノハ實行スルノ効ナ

第百七十條 皇帝ヨリ發スル諸件ノ布告ニ就
テハ主相及當該ノ本任長官其責ニ任ス但シ
執政ノ副署ナキモノハ執政ハ責ニ任セス

第二章 行政官

第百七十一條 聯邦行政官ハ皇帝ノ命ニ從フ
テ其職務ヲ取ル

第百七十二條 主相ハ皇帝ニ奏シテ諸省長
官ヲ任命スルヲ得

第百七十三條 聯邦執政ハ議案ヲ草シテ立法
議會ニ提出スルヲ得又議會ニ參スルヲ得決
議ノ數ニ入ルヲ得ス

第百七十四條 聯邦行政官ハ聯邦立法議員ヲ
兼ヌルヲ得ス

第百七十五條 聯邦行政官ハ其執行スル政務
ニ就キ皇帝並ニ國民ニ對シテ責ニ任ス

其一執政ノ令ヲ為セシハ當該ノ一執政乃
キ其責ニ任ス其衆執政ヲ為セシハ衆執
政連帶シテ其責ニ任ス

第一百七十六條 聯邦行政府官タル者職務上ノ
罪犯過失ニ就テ彈劾セラシ糾問セラル、問
ハ其ノ職ヲ辞スルヲ得ス

第三章 行政府

第一百七十七條 聯邦行政官府ハ毎歲國費ニ関
スル議案ヲ章ニ立法議會ニ出ス

第一百七十八條 聯邦行政府ハ毎歲國費決算書
ヲ製シ立法議院ニ報ス

第四章 統計局

第一百七十九條 國家歳出入ノ豫算表精算表ハ

行政府統計局ニ於テ之ヲ調成ス

第百八十條 統計局ノ長官ハ立法院之ヲ撰任

ス

第百八十一條 統計局ハ國家ノ出納會計ヲ檢

査監察スルヲ得

第百八十二條 統計局ハ行政各部ヨリ會計ニ

関スル一切ノ書類ヲ拾聚スルヲ得

第八編 司法権ニ関スル諸規則

第一章 司法権ニ関スル大則

第百八十三條 聯邦司法権ハ法律ニ定メタル

法衙ニ於テ之ヲ實施ス

第百八十四條 特別ノ定メナキ民事刑事ノ裁判詞訟ハ司法権ノ管理ニ歸ス

第百八十五條 非常法衙ヲ設ケ非常法官ヲ撰テ臨時ニ司法権ヲ行フコトヲ得ス

第百八十六條 軍人ノ軍律ヲ犯スモノハ其軍ノ裁判所ニ於テ其軍ノ律ニ處ス

第二章 法官

第百八十七條 凡ソ聯邦法官ハ立法議院ニ於テ任免ス

第百八十八條 法官ハ俸給アル職任ヲ兼ヌル
コトヲ得ス立法議員ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第三章 法衙

第百八十九條 聯邦法衙ハ憲法ニ遵フノ外不羈
ニシテ他ノ管轄ヲ受ケス

第四章 裁判

第百九十條 凡ソ裁判ハ理由ヲ附シ以テ明
ニス

第百九十一條 民事裁判ハ代言ヲ許ス

第百九十二條 刑事裁判陪審ヲ設ケ辯護人ヲ

許ス

第百九十三條 裁判ハ衆人ノ傍聽ヲ許シテ公ケニ之ヲ行フ風俗ヲ害スル事件ニ限りテ傍聽ヲ禁スルヲ得

第五章 高等法院

第百九十五條 高等法院ハ執政ノ職務ニ係ル
事案ヲ審判ス

第百九十六條 高等法院ハ皇王ニ對スル犯罪
聯邦ニ對スル犯罪ノ如キ通
常犯罪ノ外ナル
非常ノ大犯罪ヲ審明ス

第九編 土地

第百九十七條 國家土地ハ全國家ノ共有トス

第百九十八條 國家ノ土地ハ立法院ノ議ニ非

ラサレハ一モ動カス事ヲ得ス

第百九十九條 國家ノ土地ハ立法院ノ議ニ非

サレバ之ヲ他國ニ賣リ若クハ讓リ若クハ文

換シ若クハ抵當ニ入ルヲ得ス

第十編 租稅

第二百條 聯邦ノ租稅ハ各州ヨリ課ス其額ハ

法律之ヲ定ム

第二百一條 聯邦ノ租税ハ聯邦立法院ノ議ヲ
經ルニ非ザレバ一モ徴収スルヲ得ス

第二百二條 聯邦ノ租税ハ毎年一回立法院ニ
於テ議定ス

第十一編 國金

第二百三條 聯邦ノ金錢ハ憲法ニ非レハ之ヲ
使用シ之ヲ消費スルヲ得ス

第十二編 財政

第二百四條 憲法ニ依ルニ非レバ政府ハ國債
ヲ起スヲ得ス

第二百五條 憲法ニ依ラザレハ政府ハ諸債ノ
保ニ立ツコトヲ得ス

第十三編 會計

第二百五條 毎年一切ノ出納ハ預算表並ニ精
算表ニ掲ケテ必ス國家ニ公示ス

第十四編 甲兵

第二百六條 國家ノ兵權ハ皇帝ニ在リ

第二百七條 國軍ノ大元帥ハ皇帝ト定ム

第二百八條 國軍ノ將校ハ皇帝之ヲ擢任ス

第二百九條 常備兵ハ法則ニ從ヒ皇帝ヨリ民

衆中ニ募リテ之ニ應スルモノヲ用ユ

第二百十條 常備軍ヲ監督スルハ皇帝ニ在リ

非常ノコトアルニ際シテハ皇帝ハ常備軍ノ外

ニ於テ軍兵ヲ募リ志願ニ随フテ之レヲ用フ

ルヲ得

第二百十一條 他國ノ兵ハ立法院ノ議ヲ經ル

ニ非ラサレハ雇使スルヲ得ス

本編初條ニ
置ク見ル軍兵ハ國憲ヲ護衛スルモノトス

第十五編 外國人歸化

第二百十二條 日本國ハ外國人ノ歸化ヲ許ス

第十六編 特法 國ハタ

第二百十三條 内外戦乱アル時ニ限り其地ニ於テハ一時人身自由住居自由言論出版自由集會結社自由等ノ權利ヲ行フ力ヲ制シ取締ノ規則ヲ立ツルコトアルベシ其時機ヲ終ヘハ必ス直ニ之ヲ廢セサルヲ得ス

第二百十五條 戦乱ノ為ニ已ムヲ得サルコトアルハ相當ノ償シ為シテ民人ノ私有ヲ収用シ若クハ之ヲ滅尽シ若クハ之ヲ消費スルコトアルベシ其最モ急ニシテ豫メ本人ニ照會シ豫

メ償ヲ為スル暇ナキハ後ニテ其償ヲ為ス
ヲ得

第二百十六條 戦乱アルノ場合ニハ其時ニ限
リ已ムヲ得サルコトノミ法律ヲ置格スル
アルハシ

第十七編 鉄道電信陸路水利

第二百十七條 新ニ鉄道ヲ造リ電信ヲ架シ陸
路ヲ啓キ水利ヲ通スル等ノハ通常會議ニ
於テ之ヲ議スルヲ得ス立法議員特別ノ會議
ヲ以テ之ヲ定ムルヲ得議首過半数ノ同意

ハ
文
三

アルモノハ之ヲ行フヲ得

第十八編 憲法改正

第二百十八條 日本國憲法ヲ添刪改正スルハ

ハ必ス立法會議ニ於テ之ヲ定ム

第二百十九條 憲法改正ノ議事ハ其日ノ出席

議員數如何ニ関スル議員惣數ノ過半数ノ同

意ニ非ラサレバ決定スルヲ得ス

附則

第二百二十條 日本國憲法施行ノ日ヨリ一切

ノ法律條例布告等ノ國憲ニ抵觸スルモノハ

皆之ヲ廢ス

八
文
子

